韭而葉闊、多白無實、春分蒔之、至冬葉枯、本草衍義云、薤葉如金燈葉、差狹而更光、故古人言薤露者、以其光滑難竚之義、李時珍曰、葉狀似韭、韭葉中實而扁有劍脊、薤葉中空、似細葱葉而有稜、氣亦如葱、二月開細花、紫白色、根如小蒜、一本數顆相依而生、

〔類聚名義抄 八艸〕薤 俗盌字、音械、オホミラ、ナメミラ、ミラ、ニラ、ヒル、

〔書言字考節用集 六生植〕薤 ラツキヨウ 又云大葱 薤 ヤブニラ 火葱、莜子、菜芝、鴻薈並同、 藠 同 子 同上、並見本草、

〔東雅 十三穀蔬〕薤ヲホミラ　神武天皇御製の來目歌の中に、カミラといふ事の見えしを、日本紀釋には、大薤をいふ也と註したり、倭名鈔には、本草蘇敬註を引て、薤是薤類也、オホミラといふ、韭はコミラ、又菜總名也と註せり、ミラといひ、また菜總名也といふ、義並不詳、後俗呼てニラといふもの是也、韭薤の類、後にニラといひしは、ミといひ、ニといふ、相通じていふは常也、萬葉集鈔に、ナミハヤの國を、ナニハといひ、ニラをミラといひ、ニナをミナといふが如しと見えたり、或は後の人梵語によりて、其青色なるを云ひしも知るべからず、梵に尼羅といふは、漢に青色と翻するなり、

〔倭訓栞 中編二十八〕らつけう　薤をいふ、辣藠の音也といへり、らんけうともいふ、中山傳信錄に、辣蕎とせしも是にや、和名抄には、薤をおほみらと訓どり、

〔本朝食鑑 三葷辛〕薤 訓於保仁良

集解、薤當世賞之者少、處處希有、八月栽根、正月分蒔宜肥壤、其葉中空似細葱而有稜、氣亦如葱、二月開細花、紫白色而無實、故分根而種、根如小蒜、一本數顆、俗混稱羅津岐與(ラツキヨ)、五月葉青可掘之、否則肉不滿也、

〔本朝食鑑 三華和異同〕薤

薤本邦之大韭也、世未多種之、俗混稱羅津岐與、然薤根有臭、羅津岐與者不臭、此水晶葱也、葱葉蒜根、其根與薤根全相似、則混之亦無害、

〔重修本草綱目啓蒙 十八葷辛〕薤　オホミラ 和名鈔　サトニラ 古名　ラツキヤウ　タマムラサキ 新校正